

令和5年度 学校評価 (年度末評価)

本年度の重点目標		○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や地域との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の充実	
項目担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の充実 ・校内掲示板や広報活動の充実 ・PTAなど関係諸機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を定期的に行い、よりよい環境で仕事ができるよう努める。 ・見やすい学校だよりや校内掲示を作成する。 ・PTAとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム（グループウェア）を利用し、実施の周知に励んだ。効率よく安全点検ができるようにしたことで、職員や生徒が安全に過ごせた。 ・保護者に親しみやすいレイアウトで発行ができた。今後も部だよりなどの重複を避け、その時のニーズに合った内容となるよう工夫していく。 ・PTAの運営がスムーズに行えるよう、印刷や配付などを教頭と連携して行うことができた。今後、案内の作成や発信、印刷業務などの効率化について教頭と一緒に検討し、改善していく。
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化の充実 ・校内支援システム活用の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画、個別の指導計画作成において、自立活動の目標を明確にし、指導、評価につなげる。 ・学習内容の連続性・系統性を検証し、指導内容表に反映するとともに具体的指導や評価をまとめる。 ・出席簿等の運用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学部において、個別の指導計画の様式及び記載方法について変更をした。一覧にすることで、目標、学習内容、評価のつながりへの意識を高めた。 ・評価一覧表を作成し、一部教科において学習の連続性・系統性を検証し、モデル案への反映を図った。今後も継続していく。 ・情報部と連携を図り、校務支援システムへの児童生徒情報の移行に取り組んだ。来年度の児童生徒名簿の運用に向けてさらに調整を進めていく。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・防災、防犯体制の充実 ・いじめ、不登校の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス12コースの安全管理、運行の適正化に努める。 ・交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・防災、防犯体制を周知し、共通理解、意識向上を図る。 ・職員で共通理解を図り、組織で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねスムーズに運行できた。来年度の安全な運行のため、計画的にコースの選定、下見を行った。 ・高等部の自転車通学生で軽微な事故があった。一宮警察と連携しながら交通安全指導を継続していく。 ・定期的に訓練を行うことで、身を守る基本的な行動が身につけてきている。今後も訓練内容の見直しを行いながら継続していく。 ・高等部で友人関係でのトラブルがあった。重大事案に繋がらないよう関係教員で連携をしながら取り組むと同時に未然防止、早期発見に努めていく。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 ・卒業後の生活を見据えた地域との連携と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板等の情報発信を充実させ、ニーズに応じた情報を提供して、保護者の進路指導に対する意識を高める。 ・職員に対しての本校進路指導の流れの周知、ビジネスマナーの確認等の機会を設ける。 ・他分掌と連携し、早期から児童生徒の抱える課題を関係諸機関と情報共有し、地域の支援体制を整える。 ・雇用予定のある企業を積極的に開拓し、生徒に合った職域の確保をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き保護者説明会等での情報提供等に加え、個別での対応を充実させたい。ニーズに応じた幅広い情報をより分かりやすく発信していく必要がある。 ・教育支援部と連携して、支援会議を必要に応じて開催した。自治体、相談支援機関との結びつきを強めながら進めることができた。また、新規に地域の部会へ参加することで支援体制についての情報交換を行い、連携を強化することができた。 ・新規開拓から就職や体験実習の実施につながれた。今後も生徒に合った職域を確保していきたい。

<p>保健体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康づくりの推進 ・安全教育の推進 ・安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心としての役割を果たす。 ・メンタルヘルスに課題を抱える児童生徒に対し、校内の関係職員や学校医・外部の関係機関などと連携して対応にあたる。 ・食物アレルギーのある児童生徒に対する適切な給食提供や対応について全教職員間で共通理解を図る。 ・児童生徒の健康観察を徹底し、異常がみられた場合の対応を周知し安全・安心な学校生活を送れるようにする。 ・全職員による学校施設設備管理の充実を図り、安全できれいな学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮の必要な児童生徒について、保健室利用状況等の情報共有ができた。 ・アレルギー対応が必要な児童生徒の給食提供について委員会で課題を検討し、改善方法について、校務支援システムへの掲載や栄養教諭の巡回を通して、職員に適切な提供方法を周知できた。 ・健康観察カードの項目に沿って日頃から健康観察をしっかりと行った。けがをしたときの対応については、その都度原因究明を行い、再発防止の方法について周知することができた。 ・校舎の長期寿命化工事があり、安全な学校環境の整備が難しい場面もあったが、その都度連絡をしっかりと行えた。
<p>研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究が円滑に進むようにする。 ・本校が会場となる研修会を効率よく実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTについて、各自が考えを深めることができた。まとめは各グループで各自の目標に向かって取り組んだ結果を発表し合うこととしている。大きな負担はなく、進めることができた。 ・大規模改修工事の影響で、会場や駐車スペースに制約があり、研修会や介護等体験など日程を工夫して実施した。業務分担の見直しにより、勤務時間内に対応を終えられることができた。参加者の満足度は高く、次年度も同じような形で行ってきたい。
<p>視聴覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚機器の有効利用を推進する。 ・図書室を児童生徒、職員が利用しやすい環境整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・閲覧スペースの環境整備を行う。 ・新しい図書を購入し、児童生徒の指導に役立つ図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模改修工事に伴う教室移動や今後の学級数の増減に対応するため、大型モニターの点検や管理データを作成した。 ・読書月間を通して図書室の利用を促した。おすすめ本や新規図書コーナーを新設することで、貸出冊数の増加がみられた。
<p>情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の情報活用技能及びセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充実 ・GIGAスクール構想によるICTの活用のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用タブレットパソコン等の利用について、有効的な活用方法を提案するとともに、トラブル等への日常的なサポートを行う。 ・担任や学年、生徒指導部棟との連携を密にして、情報モラル教育を進めていく。 ・児童生徒一人1台タブレット端末の利用環境や利用規定を整備する。 ・学校ホームページを更新し、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員と連携して研修や相談の機会を設定することで、教員の情報活用技能の向上の一助となった。 ・保護者や生徒に向けた情報モラルのアンケートを実施した。今後、研修会等を通して児童生徒、職員についても情報モラルについての知識をさらに深められるようにしたい。 ・児童生徒のタブレット端末の利用について、授業でより利用し易いよう、環境整備を進められた。今後も、多くの教員の意見を聞きながら、整備を進めたい。 ・適時、ホームページを更新することができた。ホームページの更新方法について共通理解を図り、見やすいページにできるようにしていく。
<p>教育支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の充実 ・センター的機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけで解決が難しい問題に対して、チームで解決を図れるような体制を整える。 ・地域の小・中学校の保護者や教員を対象に、たんぽぽ相談や支援指導検討会、巡回相談等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと協力して問題の解決を図った。関係職員や外部の専門機関と連携して支援会議を行ったり、必要な情報を共有したりすることで、問題を改善していくことができた。 ・たんぽぽ相談や巡回相談等を行い、地域の学校や保護者の悩みに寄り添った。それぞれの子どもの発達特性や生活環境を理解し、よりよい助言ができるよう、今後も努力していきたい。

自立活動	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動に関する情報の収集と発信 学習指導支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高め、保護者への理解と協力を求める。 自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるよう紹介する。 チェックシート、流れ図、個別の年間指導計画の作成手順を共通理解し活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会「じかつ☆ラボ」を開催した。今後も実践につながる体験型の研修を実施し、より多くの教員が参加できるように内容や方法等工夫して教員の専門性を高めたい。また、通信で情報を発信した。今後も保護者、教員のニーズに合った情報を発信したい。 教材・教具展で自立活動教材や活動例について紹介した。今後も有効な教材の開発、紹介をしていく。 流れ図、チェックシートについて、作成手順や活用方法を周知していく。
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 家庭と連携した安全で安心な支援体制作り 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、個々の指導計画を基に、学校生活全般の中で指導を行う。 毎日の健康観察、目を離さない行動観察を継続し、体調不良やけが等の家庭への確実な情報提供や情報収集を図り、安全な支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年会、ケース会等を活用し指導計画、内容を共有して個々の実態にあわせた指導を進めることができた。 部会、学年会、朝礼等で児童の健康状態や行動特性を共有し、児童の安全を図ることができた。しかし、その中でもけがが発生しており、常に安全意识を高く持ち、個別の特性を把握しながら支援に取り組む必要がある。
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の育成及び社会生活を営む上での基礎的な能力の向上 生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や返事、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ち等の育成を家庭と連携を密に図りながら、学校生活全般を通して指導する。 生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、ICTを始めとした教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学校生活や実践を通し、また、家庭と連携を密にとりながら場面や状況に応じて挨拶や返事やルール等について適切に伝えていくことでそれぞれの生徒の意識が高まってきている。 生徒たちの実態について学年の教師間で情報を共有することで生徒たちの実態に即した課題を設定したり、ICTを利用した教材を工夫したりすることで、より生徒たちの興味を引くとともに自ら取り組む姿が見られた。
高等部	<ul style="list-style-type: none"> 自立と社会参加を実現する力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活を見据え、自立活動の視点を踏まえて、生徒一人一人の課題や適性に沿った支援を進める。 学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、主体的に学び、課題を解決していく力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間における指導が三年目に入り、各生徒が卒業後の生活を見据えた課題を意識し、改善に向けて根気よく取り組む姿が多く見られた。 実習の事前学習や生徒会役員選挙など部全体で集まって行う行事が可能となった。また、運動会を一宮市総合体育館で行う新しい取組を取り入れるなど、生徒が活躍できる場を多く設定することで、生き生きと活動に取り組む姿が多く見られた。授業ではタブレット端末の利用が増え、ロイノートやゲーム形式で学べるアプリの活用など、生徒の実態に応じた利用の仕方を工夫することで、主体的に学習に取り組む姿が多く見られた。
学校関係者評価を実施する主な項目		<ul style="list-style-type: none"> 笑顔のある安全・安心な学校づくり 卒業後を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組 	

【学校関係者評価を実施する主な項目】

項目	評価結果と課題
笑顔のある安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行したが、継続して感染症対策を行って健康管理に努め、大きな集団での活動などさまざまな活動を少しずつ再開させることができた。 来年度もさまざまな場面を想定した防災や防犯等の訓練を繰り返し行い、見直しをしながらより安全な体制づくりや環境整備を進めていく。

<p>卒業後を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や教科会など通して教職員間で、指導内容について連携を図り、学習の継続性や連続性を検証しながら、教育活動を進めることができた。 ・次年度の担当者への引き継ぎを丁寧に行い、これまでの学びを継続して行うことができるようにする。
<p>勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の勤務時間を把握し、時間外勤務が多い教員には体調や勤務状況などを確認した。「会議を行わない日」を設定し、授業や行事の準備等の時間を確保できるようにした。 ・業務改善について集めた意見等を基に、できることから改善を進めていくようにする。